

氷見の元気を発信する情報誌

ひみ

広報

11

November.2025

No.865

一生懸命お手伝い！

- 2 氷見まちづくり議会本会議を開催しました
- 6 芸術文化館イベント情報
- 7 令和7年度原子力防災訓練／マイナンバーカードの更新をお忘れなく！
- 9 年末調整・税の申告準備はお早目に
- 23 暖房器具を正しく使って火災を防ぎましょう

長坂地区での棚田オーナー稲刈り(関連記事は25ページ)

企画総務委員会

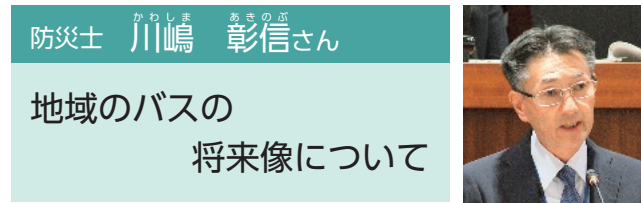
氷見まちづくり議会 本会議を開催しました 議員の皆さんの市政への 質問や提案を紹介します

氷見の未来について真剣に考え、議論や提案を通じて市政に参加する。そんな市民参加の場とした「氷見まちづくり議会本会議」を、9月28日に開催しました。議会は7月12日に開会し、高校生や大学生、市内の企業や団体に所属する10代から70代までの男女17人が議員として活動しました。

期間中は、市政や議会に関する学習会や現地視察を通じて、氷見市が取り組んでいる震災からの「復興加速」に関する施策や、氷見市を将来に継承するための「活力創造」に関する取り組みを学び、氷見市の将来について活発な議論を交わしました。最終日の本会議では、市政に関する質問や提案を行いました。

質問や提案の内容は、「公費解体跡地の活用」といった復旧・復興に関するもの、「これからの本市の観光戦略」、「氷見線の再構築事業によるまちづくり」、「未利用地を活用した地域の活性化」など、まちの活力創造に向けたもの、「地域バスの持続性の確保」、「高齢者が安心して暮らせる取り組み」、「放課後児童クラブ活動の充実」などの住み続けられるまちづくりに関するものなど、多岐にわたりました。いずれも、本市の将来に向けて、今まさに解決していかなければならない課題に対する提案や意見でした。

次ページから委員会ごとに紹介します。
Q…議員からの質問や提案など、A…市の答弁の概要

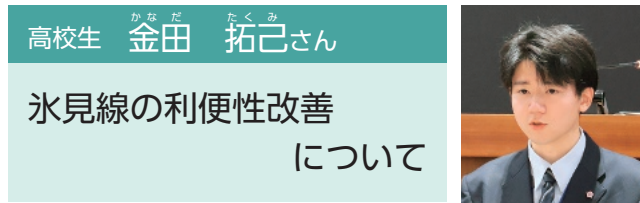


防災士 川嶋 彰信さん

地域のバスの 将来像について

Q 地域NPO法人が地域のバスを運営しているが、過疎化や高齢化で人材・資金確保が難しく、地域ごとに限界がある。市全体でバス路線の相互乗り入れなど共有化は可能か。地域交通は生活に直結している。地域のバスの将来像を伺う。

A 利用減少や運転手不足に対応し、経理の共同化やデマンド運行推進に取り組み、持続性確保を図っている。公共交通は地域生活に不可欠であり、効率化・利便性向上を図り、確保に努める。



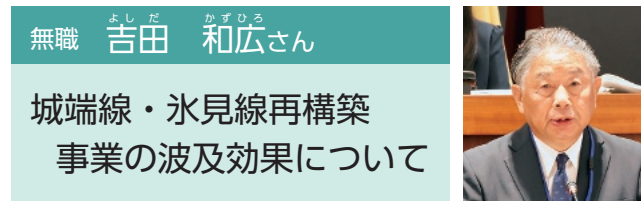
高校生 金田 拓己さん

氷見線の利便性改善 について

Q 氷見線の運行本数が少なく、老朽車両の不便さに不満がある。

A 改善には本数増加や車両更新が必要であるが、コスト高や運賃収入不足による赤字拡大や運賃値上げの懸念がある。

A 国の再構築制度を活用し、計画を策定・認定を受けた。計画では事業主体をあいの風とやま鉄道に変更し、新型車両導入と運行本数増加を予定。整備費は国・県・市の支援等で賄い、運行事業者負担はない。運行コストも基金で補填されるため運賃値上げなどの負担はない。

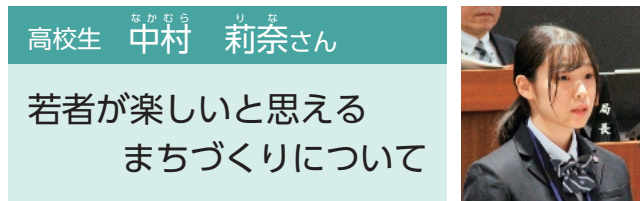


無職 吉田 和広さん

城端線・氷見線再構築 事業の波及効果について

Q 城端線・氷見線再構築事業では、運行主体の変更や新型車両導入、両線直通化を進め、まちづくりや交通連携、観光振興と結び付ける上で、直通化・増便による転入促進や観光客増加による税収効果を人口ビジョンに反映できるか。

A 本事業は本市活性化の起爆剤となり得る。事業同士を連動させ、総合的に進める。まち・ひと・しごと創生総合戦略や氷見市総合計画に必要施策を盛り込み、計画的に実施する。事業効果や関連施策による人口動態変化を分析し、第3期人口ビジョンに反映したい。



高校生 中村 莉奈さん

若者が楽しいと思える まちづくりについて

Q 転出した若者が戻っていない。地域に娯楽施設が少なく、学校帰りに遊べる場所も限られている。空き家を利用したレジャー施設の設置が若者流出抑制につながると考える。

A 昨年の高校生アンケートでも遊び場不足が指摘された。娯楽施設は主に民間事業者の判断で、市は空き店舗情報提供など支援に努める。今後とも若者のニーズを的確に把握し、第3期まち・ひと・しごと創生総合戦略策定で検討する。



全5回の学習会と現地視察等を通じて、市の取り組みや課題などを学び、9月28日の本会議に臨みました。

企画総務委員長報告



大学生 木下 京汰朗さん

市が行う取り組みを実効性のあるものとするため、優秀な人材の確保が不可欠であり、市職員採用の間口を広げ、オンライン等による採用試験の広報から応募までを一体的に行うなど、応募のしやすさと選考の透明性を高める仕組みを早期に整えるべきである。また、業務効率化と市民サービスの高度化を実現するため、庁内に横断的な生成AI推進チームを設置し、小さな実践を継続的に積み上げ、作業時間の短縮や住民向け案内の改善といった効果と留意点を共有していくことを提案する。

このような改善は、市民の毎日の不便を一つずつ解消する地道な積み重ねであり、同時に優秀な人材を惹きつける「働きやすさ」の土台となる。



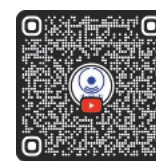
ケーブルテレビ放送

9月28日に開催した氷見まちづくり議会本会議の様子をケーブルテレビ（ひみちゃん9）で放送します。

放送期間 12月21日(日)～27日(土)

時間および内容

10:00～ 議会開会から6番目発言議員まで
15:00～ 7番目発言から10番目発言議員まで
20:00～ 11番目発言から議会閉会まで



氷見市公式YouTubeチャンネルでも配信します。お楽しみに！

議長挨拶

会社員 朝日 祐子さん



議会開催期間の2ヶ月半の間、市職員の皆様のサポートを得ながら、全5回の全体および委員会別学習会を通して、議員の皆様と市政について学び、意見交換を重ね、理解を深めるという貴重な経験ができた。本議会の成果が、氷見市の未来に希望をもたらす施策の一助となれば幸いである。

氷見まちづくり議会議員として活動できたことは、私の今後の人生において大きな財産となるものであり、深く感謝し上げる。また、議会にご参加いただいた皆様の精力的な取り組みに、心より敬意を表する。引き続き市政に関心を持ち、この経験を生かして今後ますます活躍されることを願っている。

大学生 中田 侑里さん

観光資源と空き家などの活用について



Q 氷見市は立山連峰の眺望や美しい海岸線という独自の景観を持つ。海岸線にインスタ映えするカフェやレストランなどの誘致は、地域参画や活性化につながる。海岸を一望できる店舗誘致と観光客・若者向けPR戦略について伺う。

A 市は商工会議所や金融機関と連携し、創業塾や補助金で開業支援、空き店舗・空き地情報提供や大家紹介を行っている。飲食店向けのための情報発信はしていないが、市、観光協会、商工会議所と連携し、情報発信とPRに努める。

高校生 草山 愛葉さん

若者への氷見の魅力発信と若者の働く場の創出について



Q H I M I 学で人口流出の要因が若者の市外進学と知った。若者が氷見の魅力を感じる情報を常に目に触れる工夫が必要ではないか。起業支援や低家賃店舗整備など、他自治体より手厚い制度は若者が集まるまちづくりにつながる。

A 若者や学生向け情報発信は限られているが、ホームページや散策マップで提供している。若い世代向けの情報発信方法を検討する。若者が働きたくなる企業の誘致に対する補助制度の新設や創業支援を行い、若者の夢の実現を支援する。

会社員 松崎 亜紀さん

放課後児童クラブについて



Q 放課後児童クラブは、支援員不足や予算難・高齢化で十分な支援や活動が難しい。支援員確保には現役世代が働きやすい給与体系の見直しが必須。大切な児童期に充実した場を提供するため、現状の支援と今後の計画を伺う。

A 放課後児童クラブは保護者の就労中の児童育成に重要だが、支援員不足や予算制約が課題であり、資格研修緩和や財政支援を関係機関に要望している。クラブの特色を尊重し柔軟な支援を進め、要配慮児童や支援員の処遇改善などニーズに対応する。

会社員 土後 富士子さん

高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らせる取り組みについて



Q 急速な少子高齢化に直面し、地域包括ケアシステムの充実が不可欠。医療・介護・福祉の連携強化や見守りネットワーク、災害対応体制の整備が必要。介護人材不足の解消には、育成や介護ロボット・ICT活用、外国人介護人材の採用と支援体制強化が必要である。

A 高齢者見守り体制は民生委員や介護関係機関と連携し支援を強化、災害時の個別避難計画も全地区作成を目指す。介護人材は市が支援補助金を交付し、国・県は介護ロボやICT導入の支援を行っている。外国人人材受入についても情報提供や普及啓発に努めている。

地域おこし協力隊 三上 啓さん

氷見市観光振興ビジョンを踏まえたインバウンド政策の今後の取り組みについて



Q 氷見市を訪れる観光客の属性や来訪目的をどのように把握し、ターゲット層を設定しているのか。欧米諸国など長期滞在型観光への地域プロモーションはどうか。観光客向け二次交通整備や自然資源を活かした観光への取り組みを伺う。

A 宿泊施設調査で属性等を把握し、現在は台湾をターゲットとした誘客に取り組む。欧米誘客は富山県と連携している。必要な二次交通の運行について情報収集を進める。自然・地域資源を発掘・磨き上げ、観光魅力の創出を図る。

会社員 吉田 知恵子さん

防災力強化における「自主防災組織」や「地域づくり協議会」が担う役割と今後について



Q 人口減少・少子高齢化で地域内連携の薄れが懸念され、地域防災計画の実行性確保と持続可能な地域社会と災害に強いまちづくりの機能の維持が重要である。「自主防災組織」の平常時・災害時の役割と今後について伺う。

A 自主防災組織は平常時に防災知識普及・訓練・資器材管理、災害時に避難誘導・救助・避難所運営を担う。今後は各組織に地区防災計画に基づく訓練実施を促し、課題の見直しを繰り返し行うことで災害時の応援協力体制強化を図る。

団体職員 河端 祐樹さん

公費解体後の土地活用について



Q 公費解体により空き地が増え、コミュニティ衰退が懸念される。中央町の防災建築街区も解体予定だが、跡地に観光客滞在促進や地域住民交流、防災拠点など機能を持つ複合商業施設の設置を提案する。

A 中央町は中心市街地であり、市のまちづくりで重要な場所である。中央町商店街振興組合は年内に将来ビジョンや更地の暫定活用など行動計画をまとめる予定と聞いている。市も市内各地区と共に復興に向けたまちづくりを進めていく。

高校生 松井 勘亮さん

市内公共施設のさらなる活用について



Q ふれあいスポーツセンターは予約や料金面で利用しづらい。気軽にスポーツができる施設はどのようなものがあるか。芸術文化館に休憩スペースやカフェを導入し、学生向け割引制度があれば若年層の利用増加につながるのではないかな。

A 市内には有料・無料の多様なスポーツ施設があり、様々なスポーツが楽しめる。芸術文化館は多くの高校生も利用している。飲食はイベント時のキッチンカーで販売されているが、氷見高校のDXハイスクール構想を活用し、自動販売機割引などについて氷見高校と協議したい。

産業建設委員長報告

自営業 上 雅大さん



首都圏から地方への移住・就業への関心が高まる中、市民と連携した「場所」づくりや情報発信の強化が求められている。立山連峰を望む海岸線や魅力的な未利用地の活用は、住民の憩いの場の創出や観光客の満足向上につながる。

訪日観光客への戦略的プロモーションと交通整備の推進も重要である。能登半島地震以降、防災の重要性が広く認識され、地域協力的体制の強化も進んでおり、市の積極的な取り組みが期待されている。氷見市には、まだ掘り起こされていない「ヒト・モノ」のポテンシャルが高く、行政と市民が協力して未来に向けた取り組みを実現していくことが重要である。

自営業 松木 佳太さん

行政保有の未利活用地の活用と市民参画による持続可能な経済基盤づくりについて



Q 行政保有の未利活用地は観光資源として可能性が高い。観光資源として活用するための事業の公募や新たな活用枠組み創出が必要ではないか。市民が主体参加できる市民ファンDについて行政が主体的に関与することは可能か。

A 行政保有の未利活用地は「未利用地有効活用検討委員会」が観光活用や民間売却などを多角的に検討している。市民ファンDへの関与は先進事例を調査し、金融機関と連携しながら市民がまちづくりを実感できる取り組みを検討する。



厚生文教委員長報告

会社員 島 雅子さん



能登半島地震の公費解体による空き地増加とコミュニティ衰退を懸念しており、市の中心市街地の再生のため、「町の賑わい拠点」となる施設の設置などのような復興した姿をみんなで話し合い、決定し、進めていくことを期待している。また、高齢者が安心して暮らせる地域包括ケアの充実や介護人材不足などへの支援、若者の活動環境の整備、児童生徒の健全な育成のための支援体制づくりに取り組んでいただきたい。

私たち一人ひとりが主役であるとの自覚を持ち、まちづくりに参画していくことが、氷見市の未来を築くことにつながるものである。